

れんさい 監査の四季

第22回 鯖江市代表監査委員
川 中 清 司

地場産業の新ビジョン うるしの里の新展開

継体天皇が王子さまのころ、漆の冠を差し上げたーこんな伝説もある越前漆器。最盛期には業者数4百軒、出荷高は150億円を記録しました。

しかし、バブル崩壊と生活様式の変化などの影響もあり、平成13年度末では業者数約280、出荷高は約80億円となりました。

アンケート調査によると、業者の約7割が受注量の不足と不安定、単価の低下を訴えており、半数が将来性や見通しに不安を抱いています。こんな中で越前漆器協同組合と市は越前漆器産業ビジョン2003を打ち出しました。



大勢の人でにぎわううるわし回廊

効果的な展示会、産地ブランドなどのPR戦略。実用性や福祉高齢に沿った商品の開発。製造販売一体の取り組みを提案しています。

もの、まち、くらしづくりが連動した市のファッショントウン構想の中で、うるしの里づくりも進んでいます。

消費者にもっと漆器と産地に親しんでもらおうと、職人の現場に近づく工房ショップの推進を掲げ、平成11年から誰でも見学できる工房店舗づくりを始めました。

越前漆器協同組合では、産業観光の推進と消費者の皆様への感謝を込めた事業の一環として10月25、26の両日、「越前河和田うるわし回廊」を開きました。

天候にも恵まれて西宮市文化振興財団の人たちがバスで参加するなど、約2千人が訪れ、工房見学や直販ショップでの買い物など大いににぎわいました。

いよいよ漆器会館の建設が始まりました。総工費7億円を投じて、17年3月の完成を目指しています。

これまでの今立の和紙から河和田の漆器の里に加え、一乗谷朝倉氏遺跡から永平寺への産業観光ルートへの展開も期待されています。